

他人事ではない世界の紛争

黒木 英充 東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所 教授

〔講演の概要〕

現在、世界各地で、さまざまなメディアで「テロ」という言葉が蔓延している。そして実際に数多くの暴力によって人命が失われ続けている。しかし、私たちは「テロ」という言葉一つですべてがわかった気になっていて、実際にはなぜその暴力が生まれてきたのか、何もわかっていないのではないだろうか。そしてこの雲をつかむような言葉をもとにして、私たちは戦争に加担している、参加しているのではないだろうか。

「テロ」という言葉は実にさまざまな暴力を指すうえ、人々から冷静に思考する力を奪い取る、という深刻な問題がある。この言葉にがんじがらめにされずに、「政治的暴力」という一般的な用語を手にして、広く世界を見渡してみよう。どのような人たちがどんな理由でその暴力を行使したのか。そこにはどんな背景があるのか。いつからその問題は生じてきたのか。「複雑すぎてよくわからない」と言う前に、まずは考えてみよう。日本も政治的暴力から決して自由でなかったし、今なおそれを示す事件も起こっている。そして地球がこれほど小さくなった今、世界各地の問題はますます密接に関係し合ってきているのだから、遠い国で政治的暴力により無念にも命を奪われた人たちのことは、決して他人事ではないのだ。

私たちの身近なところから問題の系はいくつも広がって、世界各地の紛争につながっている。この感覚を大事にすることが現在、平和構築のあり方を考えるための最初の一步であろう。そのうえで国際政治のレベルで自国の政府が露骨な二重基準を用いていないか、それに与していないか、を監視し、政治的暴力を刑法的犯罪としてきちんと位置づけて対処するシステムを育ててゆく必要がある。

今後、世界は資源分配をめぐる必ず厳しい局面にさしかかる。そのときにいかに暴力に依存せずに共通理解の場を作り出せるか。そして信頼を構築できるか。残された時間はあまりないだろうが、人文・社会科学はこの問題に取り組み続けるべきだと考える。

〔プロフィール〕

東京大学大学院総合文化研究科修士課程修了後、東京大学東洋文化研究所助手、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助手、同助教授を経て現職。専門は東アラブ近・現代史。同地域の宗教・宗派間の関係変化と社会変容との解明をめざす。バイルートの「中東研究日本センター」長を兼務。編著 *The Influence of Human Mobility in Muslim Societies* (London, 2003), 共著『「対テロ戦争」とイスラム世界』(岩波新書、2002) など。